

2015年12月、札幌あいの里キャンパス(臨床キャンパス)に

地域包括ケアセンター開設

4人に1人が高齢者という超高齢社会を迎えた今、国を挙げた、医療・介護システムの大きな変革がはじまっています。

それは、従来の病院や福祉施設中心のサービスから、在宅医療・介護へのシフトを推進することです。

北海道医療大学は、そのような社会的状況にいち早く対応。

在宅ケアの拠点であり、多職種連携教育の拠点でもある「地域包括ケアセンター」を開設します。

多職種と連携しながら在宅ケアを実践できる医療人の育成と、地域社会への貢献をめざしていきます。



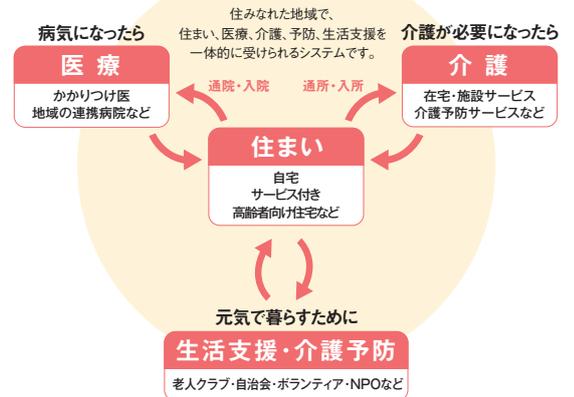
在宅ケアを実践できる医療人を育成します

病院・福祉施設から、在宅中心へ 変革が求められる医療・介護システム

超高齢社会を迎え、医療・介護システムの変革が求められている中、厚生労働省が推進しているのが「地域包括ケアシステム」の構築です。これは、病院や福祉施設を中心に提供してきた医療、介護、予防、生活支援などのサービスを、在宅でも一体的に受けられることができるシステム。住み慣れた自宅で、人生の最後まで自分らしい暮らしを送れるような地域社会をめざすものです。



地域包括ケアシステムとは？



在宅ケアの担い手を育てるために 北海道医療大学が、できること

国を挙げて在宅医療・介護へのシフトを推進する社会的状況に、本学はいち早く対応。2015年12月、札幌あいの里キャンパス・北海道医療大学病院の隣接地に「地域包括ケアセンター」を開設予定です。看護師、福祉専門職、リハビリテーション専門職などが密接に連携した在宅ケアを展開し、学生の実習拠点としても機能。在宅医療・介護の現場で即戦力となる人材を育成するための多職種連携教育が、さらに充実します。

北海道医療大学地域包括ケアセンターの機能

訪問看護や居宅介護支援事業などを通して地域社会に貢献し、学部・大学院生の実習教育を行う拠点として機能します。

在宅支援 (臨床)	●訪問看護(訪問リハ含む) ●居宅介護支援事業	— 大学病院などとの連携
社会貢献	●地域住民の交流の場づくり事業 ●地域住民の健康づくり支援事業 ●認知症をもつ方および家族の支援事業 ●地域関係機関との連携	
教育	●学部・大学院生の教育、多職種連携教育 ●専門職業人の生涯学習	
研究	●住民の生活習慣、生活機能に関する研究 ●教育効果に関する研究 ●高齢者ケア、認知症ケアに関する研究	

在宅ケア、多職種連携を学ぶ、 学部学科の枠を越えた実習教育を展開

病院や福祉施設で行われる従来の臨地実習は、相互に独立した専門領域縦割り型が中心でしたが、地域包括ケアセンターでは、学部学科の枠を越えて多領域を横断し、地域で暮らす住民の生活に密着した実習を行うことが可能です。在宅医療・介護の現場で必要とされる高度な専門性、多職種連携の深い理解、そして豊かなコミュニケーション力を実践的に習得します。



訪問看護ステーションと、居宅介護支援事業所を併設

訪問看護師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士が北海道医療大学病院などと連携し、適切な判断に基づいた在宅医療・介護サービスを提供。病状の観察、認知症ケア、在宅リハビリテーション、日常生活の支援、ご家族の介護相談などを行うチームに学生が同行し、多職種連携を実践的に学びます。

学生と地域住民が触れ合う、地域交流サロンや研修室を設置

認知症の方やその家族が集まり情報交換を行う認知症カフェをはじめ、広く地域住民の方々に開かれた多彩な交流会を開催できるスペースを設置します。学生が地域住民の方々と交流することで、医療や介護へのニーズを把握し、これからの医療人に求められていることを実感することができます。